

山形県飯豊町中津川地域での 実証調査(地域管理構想)の取組概要

- R7年6月より、山形県飯豊町中津川地域において地域管理構想の実証調査を開始。
- これまで同地域で農林業、廃校舎利活用等の議論を行ってきたことを土台として、山林・農地・居住地・未利用施設・空き家などの将来に向けた維持管理や活用方法、持続可能な地域のあり方について話し合い、活動につなげるべく、R7年度内に地域管理構想策定を目指す。

■ 対象地域：山形県飯豊町中津川地域

■ 地区概要

- ・ 位置：山形県南西部に位置。JR米坂線と国道113号が東西に走り、仙台と新潟を結ぶ内陸横断ルートの中間地点となっている。
- ・ 人口等：人口188人、83世帯、高齢化率62.8%、若年人口率4.3%^(R7.4)
- ・ 地形：置賜白川が町の南北に貫流し、河川沿いの耕地と山間地の沢沿いに集落を形成。森林面積は84%。標高は360m程度。

■ 検討体制

- ・ 中心組織：住民組織（中津川むらづくり協議会）、飯豊町
- ・ 協力支援：山形県（農村計画課等）、山形県農村づくりプロデューサー
関連団体（森林団体等）、関連企業（農業法人等）等



【実証調査の応募に至った経緯】

- ・ 中津川地域の主産業は農林業であり、R5年よりIターン就農者の雇用をスタートしているが、円滑に動くまでには至っていない。また、10年後の地域農業のあり方と農地の管理方法を示した「地域計画」をR7年3月に策定したものの、実行性に不安があるところ。
- ・ 加えて、中津川地域で特徴的な12,000haに及ぶ森林（財産区）についても、将来的な管理方法を検討する必要がある。
- ・ この数年の間に過疎・高齢化が急加速したことで、将来的に農地・森林・宅地・施設を維持していくためにどのような対応が求められるか、話し合い、活動する必要性を地域が感じ、地域管理構想の策定を目指すこととした。

【策定に向けた検討課題】

■ 全体

- ・ 地域に根差す農業法人やバイオマス株式会社との連携等による地域資源の活用と暮らしの維持
- ・ 閉校した旧中津川小中学校等の未利用施設の管理と活用
- ・ 豪雨災害の経験(R4)を踏まえた災害リスク低減への貢献

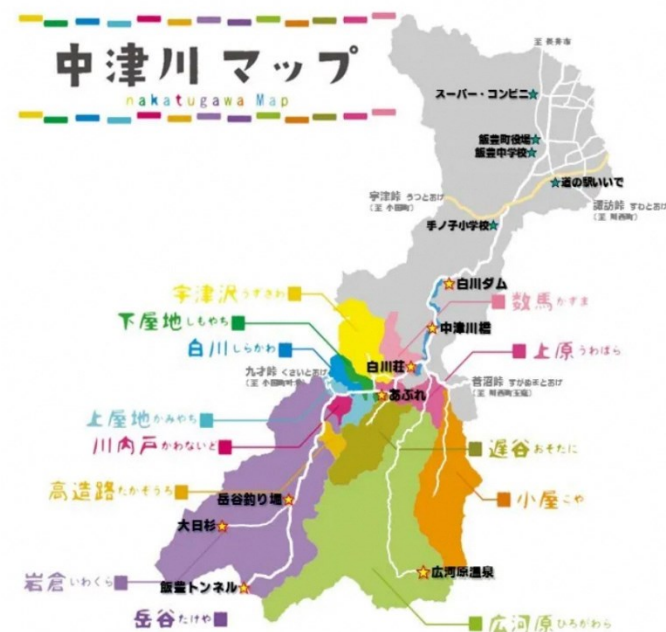
■ 農地

- ・ 人口減少・後継者有無等を踏まえた維持管理
- ・ 野生鳥獣被害拡大による耕作放棄や離農への対応

■ 山林

- ・ 木質バイオマス等への利用を含む維持管理

※ 山形県及び飯豊町も並走支援を行うこととしている。



中津川地域

出典: いいもんだ中津川HP

検討エリア周辺の活動



(上) 山間地での稲作

(下) 移住者も含め発足した森林団体の活動



出典:「おいでいいで飯豊町」

【R7年度スケジュール（案）】

R7年	6月	検討体制の構築
	7～11月	検討会議（4回程度）
	12～1月	素案作成
R8年	2～3月	検討会議 成果報告会